

TOPTICA取締役会における人事異動のお知らせ

ウィルヘルム・カエンダースがCTOを退任、フランク・リソンが新CTOに就任

ドイツ、グレーフェルフィング | 2026年6月23日

2026年10月1日付で、フランク・リソン博士が、TOPTICAの創業者であるウィルヘルム・カエンダース博士の後任として、TOPTICA PhotonicsグループのCTO兼取締役
に就任します。

リーダーシップの継続性と技術的卓越性の維持を目的とした当社の長期的な後継計画に基づき、フランク・リソン博士がウィルヘルム・カエンダース博士の主な職務を引き継ぎます。ウィルヘルム・カエンダース博士は創業者としてTOPTICAグループにおいて、引き続き重点市場における当社の成功に向けた発展を支援していきます。



2026年10月1日付で、ウィルヘルム・カエンダース博士（右）がCTOを退任し、フランク・リソン博士（左）がTOPTICA Photonics SEの新たなCTO兼取締役に就任します。

フランク・リソンは2002年からTOPTICAで様々な役職を歴任し、現在は2016年よりTOPTICA Projects GmbHの創設者兼代表取締役に務めています。

フランクはディーター・メシェデ教授の指導の下、ハノーファー大学で物理学の学位を、そしてボン大学で冷原子物理学の博士号を取得しています。その後、英国のエド・ハインズ教授のもとでポストドク研究員を務めた後、バイエルAGの中央研究グループでキャリアをスタートしました。

2002年から2010年にかけてのTOPTICAの重要な成長期には、フランクは研究開発担当副社長として、当社の着実な成長を支えました。2009年にTILL Photonics GmbHがTOPTICAに買収され、その後FEI München GmbHに売却された際、フランクはTILL Photonics GmbHの社長代行を務め、その後TOPTICAグループに復帰しました。

2026年10月1日より、TOPTICA Photonics SEの取締役会は、フランク・リソン博士（CTO兼社長、取締役会スポークスパーソン）、トーマス・レナー博士（CSO兼社長）、マティアス・シンドラー博士（COO）、ファビアン・ウル（CFO）で構成されることとなります。

TOPTICA について：

TOPTICA Photonics は、25年以上にわたりの高性能レーザーおよびレーザーシステムの開発、製造、販売を手掛けています。製品ラインナップには、光量子時計、ラック統合型レーザーシステム、光周波数コム、半導体レーザー、超短パルスファイバーレーザー、テラヘルツシステム、ならびに連続波ファイバーレーザーおよび増幅器が含まれます。

当社は世界7つの事業部門に600名以上の従業員を擁し、8,000 m²を超える生産拠点を運営しており、年間売上高は1億4,000万ユーロ(259億円)を超えています。

TOPTICA Photonics SE

ロッハマーシュラゲ 19
82166 グレーフェルフィング
ドイツ

www.toptica.com

広報担当

ヤン・ブルバッハー

+49 89 85837-1230

jan.brubacher@toptica.com

TOPTICAは、量子技術、バイオフォトンクス、半導体・材料向けのレーザーおよびシステム市場においてさらなる成長を図るため、独自のロードマップに沿って事業を展開しています。

ウィルヘルム・カエンダースは次のように述べています。「1998年に創業し、当時5名で科学・研究分野および光データストレージ市場に注力していた当社を、トーマス・ウェーバー氏と共に成長させてきたことは、私にとって光栄であり、大きな喜びでした。私たちは早期に優秀な人材を見極め、迎え入れることに成功し、何よりも重要なのは、過去30年間にわたり市場の需要に適応し、それに応えてきたことです。TOPTICAグループとして、2020年以降、売上高と従業員数を倍増させてきました」。

フランク・リソン：「TOPTICAのCTOに就任できることを大変嬉しく思います。科学的な卓越性とレーザー技術に根ざした当社の強固な技術基盤は、私が非常に高く評価している点です。チーム一同と協力し、当社のレーザー技術をさらに発展させていくことを楽しみにしています。」



TOPTICA Photonics 経営陣（左から）：マティアス・シンドラー博士（COO）、トーマス・レナー博士（CSO兼社長）、フランク・リソン博士（CTO兼社長）、および ファビアン・ウル（CFO）



フランク・リソン博士がTOPTICA Photonics SEの新たなCTO兼社長に就任